

2 0 2 1 年 度

事業報告書

公益社団法人 大阪フィルハーモニー協会

2021年度事業報告書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

1. 事業の経過の概要

2021年度も当協会は、依然収束を見せない「コロナ禍」の下で、昨年度に続き厳しい運営を余儀なくされました。

その様な状況下、「交響管弦楽その他音楽の普及振興を図る」とともに「青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行う」という基本方針に基づき、我が国の文化芸術の振興、並びに大阪を中心とした地域貢献に資する事業を、ガイドラインの遵守と感染拡大防止策の徹底に留意しながら実施いたしました。

尤も、主要事業である大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏活動は、4月25日～6月20日の期間に発出された3回目の緊急事態宣言下では、約1ヶ月半、やむを得ず中止。また、4回目の緊急事態宣言では、8月2日～9月30日の間入場者率50%の規制を遵守しながら活動いたしました。

これらの影響により定期演奏会を含めた26公演が中止となり、実績は昨年度並みの76公演（予算比▲12公演、前年度比+4公演）に止まっております。

当年度は感染症の長期化を見越し大幅な赤字計画としておりましたが、楽団経費、事業費の削減といった自助努力に加え、理事会社をはじめとする法人及び個人のご支援や国の助成措置継続等により、経常収益845百万円（前年度比▲99百万円）、経常費用845百万円（前年度比+63百万円）、経常増減額▲0.4百万円（前年度比▲162百万円、計画比+118百万円）と赤字幅を計画比で大きく圧縮することができました。

2期連続で多額の収益機会を逸失することとなり、当協会の重点課題である「自立に向けた収益基盤の充実」、「オーケストラの体制整備」については満足できる結果には至らず、より強力な取組が必要であると考えております。

次年度におきましても長引くコロナ禍によって、厳しい運営が続くと思われませんが、引き続き収益確保と各所からのご支援の獲得に注力し、楽団の活動の維持と更なる経営改善を図ってまいります。

なお、コロナ禍での不測の事態に備えて金融機関から借入れた新型コロナ感染関連特別融資は、金利コストの削減と今後の資金繰り等を検討の結果、前期末に一部繰上げ返済をいたしております。

2. 2021年度重点課題の実施状況

(1) 自立に向けた収益基盤の充実

2021年度の公演回数は、当初の事業計画88公演(自主公演37公演、依頼公演51公演)に対し、実績76公演(自主34公演、依頼公演42公演)となりました。また新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、自主公演3公演及び依頼公演23公演が中止となりました。

定期演奏会では若手から巨匠まで国内外の様々なタイプの指揮者、独奏者を招く予定にしておりましたが、政府の入国制限によって全ての海外在住アーティストが来日不可となり、国内で代役を探し開催いたしました。その他の自主公演については、前年度のチャイコフスキー／交響曲全曲演奏会に続き、ドヴォルザーク・セレクションに挑みました。

このように2度に亘る緊急事態宣言によって、予定していた公演回数は4分の3近くに減り、公演内容も一部変更を余儀なくされるなど、新型コロナウイルスによる影響は依然として大きく、収益基盤の充実を図るには極めて困難な1年となりました。

しかしながら一方で、個人や企業から多額の寄付を頂戴し、今回ご支援下さった方々には、今後も引き続き弊団のファンとなっていただくべくアプローチを続け、新たなファン層の拡大に繋げていきたいと考えております。

(2) オーケストラの体制整備

楽団員の体制につきましては、中期的目標である80名体制の整備に向けて、定期的に入団オーディションを開催しておりますが、当年度の合格者はゼロ。またヴィオラ奏者1名、チェロ奏者1名、コントラバス奏者1名が退団したため、結果、2022年3月31日現在で、コンサートマスターも含めた楽団員数は65名となっております。

トップレベルの楽団員の確保は演奏水準の維持・向上にとって不可欠であり、中期的目標を視野に引続き確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、引続きソロ・コンサートマスターを崔文洙氏、コンサートマスターを須山暢大氏に務めていただき、分担して演奏会へ出演いただきました。

(3) 大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献

大阪の秋の風物詩として街の活性化にも貢献している「大阪クラシック」については、16年目となる2021年度も桂冠指揮者の大植英次マエストロがプロデューサーを務め、2021年9月中旬の1週間開催いたしました。前年度と同様に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、昨年企画したソーシャルディスタンスを確保した有料公演とステイホームでも楽しんでいただける無観客公演の無料動画配信という形態での開催となりました。

4,885人の来場者と動画再生回数55,298回という結果に、大阪市からも高い評価をいただきました。

3. 大阪フィルハーモニー交響楽団の運営状況

(1) 定期演奏会(文化庁補助による舞台芸術創造活動活性化事業)

回数	開催日	指揮者	共演者	入場者数
第547回	2021.4.23・24	尾高忠明	並河寿美、清水華澄 吉田浩之、加藤宏隆 大阪フィルハーモニー合唱団	1,520人
第548回	中止	—	—	—
第549回	2021.6.25・26	大山平一郎(代演)	金川真弓(代演)	1,568人
第550回	2021.7.16・17	カーチュン・ウォン (代演)	—	1,938人
第551回	2021.9.24・25	松本宗利音(代演)	辻彩奈(代演)	1,715人
第552回	2021.10.14・15	秋山和慶(代演)	—	1,562人
第553回	2021.11.23・24	尾高忠明	横坂源(代演) 安井陽子(代演)	2,099人
第554回	2022.1.20・21	大植英次(代演)	中野翔太(代演)	1,687人
第555回	2022.2.10・11	尾高忠明	—	1,836人
第556回	2022.3.4・5	小泉和裕	—	1,715人

新型コロナウイルスの影響により、5月の定期演奏会が中止となったため、公演回数は予定していた20公演から2公演減の計18公演を開催。内、海外在住の指揮者5人と共演者4人が入国制限により来日できず、国内のアーティストに代演していただく結果となりました。しかし、いずれの公演も大阪フィルの音楽性は十分に発揮され、持ち前のダイナミックなサウンドが活かされた素晴らしい演奏となり、代演の機会により次代を担う新たな才能とも出会えたことは幸運でした。

その他、第549回の大山平一郎氏指揮による公演は公益財団法人アフィニス文化財団様から「楽団としての成長、発展を目指して企画された意欲的な公演」として評価され「アフィニス エチケット」の助成を受けました。

(2) ドヴォルザーク・セレクション(文化庁補助による舞台芸術創造活動活性化事業)

尾高音楽監督と就任初年度より企画してきた、ベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキーに続く作曲家シリーズとして、ドヴォルザークに取り組み、3回の内、初回がコロナの影響で延期となって指揮者も高関健氏に変更となりましたが、大阪フィルの基本レパートリーをしっかりと見直すことが出来、お客様にも大変好評でした。

(3) 東京定期演奏会

2月14日にサントリーホールで開催し、尾高監督の指揮で大阪フィルが得意とするブルックナーの5番を披露しました。演奏は文化庁をはじめ東京の主要な音楽評論家、マネジメント会社、企画制作会社等から高い評価をいただき、日本のクラシック音楽業界に対し大阪フィルの存在感を強くアピールすることが出来ました。

(4) マチネ・シンフォニー(文化庁補助による舞台芸術創造活動活性化事業)

夜間で開催するコンサートへの来場が難しいお客さまのために、平日昼間に開催する本格的なコンサートとして、Vol. 25、Vol. 26の2公演を開催いたしました。

(5) ソワレ・シンフォニー(文化庁補助による舞台芸術創造活動活性化事業)

クラシック音楽に馴染みのない方でも楽しんでいただける、古今東西の名曲を集めたコンサートとして、Vol. 17、Vol. 18の2公演を開催いたしました。

(6) その他の自主公演・共催公演

- 「神戸特別演奏会」 1 公演
- 「夏休みファミリーコンサート」 2 公演
- 「3 大交響曲の夕べ」 1 公演
- 「京都特別演奏会」 1 公演
- 「第 9 シンフォニーの夕べ」 2 公演
- 「新春名曲コンサート」 1 公演

(7) 大阪市からの委託事業等

地元西成区の音楽文化振興を目的として、大阪フィル会館を会場に毎年開催している「にしなりクラシック」を 1 公演開催いたしました。

また、「大阪クラシック」では、大阪クラシック実行委員会からの委託事業として、オーケストラ公演を 2 公演開催いたしました。

大阪市の公募型プロポーザル方式で採択された「はじめましてオーケストラ」(大阪フィルと中学生の共演コンサート) を 1 公演開催いたしました。

(8) 依頼公演

企業・団体・ホールからの依頼公演 ((7) の公演を含む) を年間通じて 4 2 公演開催し、クラシック音楽の普及に努めるとともに、企業・団体の社会貢献活動の取り組みに音楽の提供を通じて貢献することができました。

4. 大阪フィルハーモニー会館の運営

当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館のメインホール(600 m²)・市民スタジオ(90 m²、40 m²×2 の 3 室)を、市民の音楽活動の拠点として貸与する事業を通じ、地域の音楽文化の普及、振興に貢献いたしております。2021 年度の利用件数は、昨年度に続く新型コロナウイルス感染症の影響により、メインホール 7 8 件、市民スタジオ 3 室合計 4 6 0 件となりました。

5. 法人の庶務

(1) 総会

- ・ 定時総会 開催日 2021年6月16日

決議事項

- 議案① 2020年度事業報告及びその附属明細書承認の件
- 議案② 2020年度貸借対照表、正味財産増減計算書、
それらの附属明細書および財産目録承認の件
- 議案③ 理事5名辞任に伴う理事5名選任の件
- 議案④ 顧問1名辞任に伴う顧問1名選任の件

(2) 理事会

- ・ 定時理事会 開催日 2021年5月17日(オンライン開催)

決議事項

- 議案① 第10回定時総会招集の件
- 議案② 2020年度事業報告及びその附属明細書承認の件
- 議案③ 2020年度貸借対照表、正味財産増減計算書、
それらの附属明細書および財産目録承認の件
- 議案④ 理事5名辞任に伴う理事候補5名選任の件
- 議案⑤ 顧問1名辞任に伴う顧問候補1名選任の件
- 議案⑥ 人事異動に関する件

- ・ 定時理事会 開催日 2022年3月8日(書面)

決議事項

- 議案① 2022年度事業計画(案)及び収支予算書(案)承認の件

(3) 会員の状況

本年度末の会員数	: 法人	242社	個人	246名	計	488名
前年度末の会員数	: 法人	255社	個人	261名	計	516名
差引	: 法人	▲13社	個人	▲15名	計	▲28名

(内 訳)

入会	: 法人	5社	個人	12名	計	17名
退会	: 法人	▲18社	個人	▲27名	計	▲45名

2021年度新規加入会員

(法人の部) 5社

株式会社水空間、アーク不動産株式会社、株式会社KYOWA 都市デザイン
ユーロモータース株式会社、株式会社旭鍍金工業所

(個人の部) 12名

野口昭雄、横井良明、喜多洲山、櫻井英博、加藤尚美、梶岡肇、岩城久夫
久原一真、吉田悠、匿名3名

(4) 役員の異動

2021年度中の役員の異動は下記のとおり

(退任役員)

- ・ 理事 今井 敏之氏 (Daigas エナジー株式会社
都市圏エネルギー営業部長)
2021年6月16日退任
- ・ 理事 板井 昭浩氏 (朝日放送テレビ株式会社
総合編成局コンテンツ戦略部エキスパート)
2021年6月16日退任
- ・ 理事 笹川 淳氏 (株式会社大林組 副社長執行役員)
2021年6月16日退任
- ・ 理事 武野 一起氏 (読賣テレビ放送株式会社 制作局長)
2021年6月16日退任
- ・ 理事 久田 裕彦氏 (日本製鉄株式会社
瀬戸内製鉄所総務部呉総務室長)
2021年6月16日退任
- ・ 顧問 佐藤 義雄氏 (住友生命保険相互会社 取締役)
2021年6月16日退任
- ・ 顧問 宇野 郁夫氏 (日本生命保険相互会社 名誉顧問)
2021年11月2日退任

(新任役員)

- ・理事 森崎 健志氏 (大阪ガス株式会社 理事 秘書部長)
2021年6月16日就任
- ・理事 川合 陽一郎氏 (朝日放送テレビ株式会社 事業局 局長補佐)
2021年6月16日就任
- ・理事 秀高 誠氏 (株式会社大林組 専務執行役員)
2021年6月16日就任
- ・理事 高津 英泰氏 (讀賣テレビ放送株式会社
ビジネスプロデュース局長 イベントビジネスセンター長)
2021年6月16日就任
- ・理事 和田 謙也氏 (日本製鉄株式会社 大阪支社 総務室長)
2021年6月16日就任
- ・顧問 橋本 雅博氏 (住友生命保険相互会社 取締役会長)
2021年6月16日就任

※ 各氏の所属会社・団体での職位は、いずれも就任・退任時の職位

以上

公益社団法人大阪フィルハーモニー協会 役員一覧
(2022年3月31日現在)

理事長 奥 正之
常務理事 松村 隆
常任理事 角元 敬治
" 中嶋 啓吾
" 新沼 宏
" 福田 里香
" 彌園 豊一
" 室町 鐘緒
" 森崎 健志
理 事 天野 剛志
" 安藤 恭輔
" 大場 英幸
" 小原 一泰
" 川合陽一郎
" 高津 英泰
" 斉藤 裕典
" 穴道 学

理 事 鶴田 七郎
" 中谷 敏昭
" 西岡 信雄
" 長谷川 壮
" 秀高 誠
" 山本 卓彦
" 和田 謙也
監 事 長田 晃一
" 森下 文夫
顧 問 太田 房江
" 小野寺 昭爾
" 北岸 松男
" 關 淳一
" 中川 和雄
" 橋本 雅博